

天草中だより



令和2年5月18日 第2号
文責：校長 豊原 康德

臨時休校中の学校の動き～新たな模索と自主的な取組～

3年生の臨時休校中の家庭学習に、天草市から配置されているタブレットを使用しました。この使用にあたっては、天草市教育委員会から許可をもらい、市の情報政策課からも諸設定をしてもらうなど、多方面の方々に協力いただきました。自治体によっては、インターネット環境が整っており、オンラインによる同時双方向学習が可能などところもあるようですが、本校の場合はできませんので、タブレットに動画や資料等を直接入れました。プリント学習では、復習中心となりがちですが、今回は動画や音声により予習的な内容を講義形式で行うものが中心です。各教科担当が工夫して作成しました。1・2年生にはDVDでの学習内容提示も行いました。

どっちがいい構図？



【美術科 スケッチの学習教材の一部】



新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、使い捨てのマスクの購入が難しくなっています。マスク不足を補うため、天草学校給食センター（本校敷地内）の職員の皆様、高浜のヒゴゲーム様から全校生徒及び全職員に手作りマスクをいただきました。また、本校職員の有志も休校期間中に生徒用マスクを作成しました。それらのマスクは、登校日に各生徒に配付しています。布等の材料については、それぞれに準備していただいています。感染状況に一喜一憂したり、外出自粛でストレスがたまるこの時期に、心が温まる出来事でした。



給食センターの職員の方々には、体育館周辺の清掃作業をしてもらっています。教職員もGW明けから、火曜日の午後に校地内の除草作業を行っています。5月12日の夕方には、PTA副会長の池田和浩さんと3年の晴士郎さんにグラウンド周辺の草刈りをボランティアでいただきました。ありがとうございました。

【ひとこと】

長期の臨時休校となりました。例年なら、体育大会の時期を迎え、練習等に汗を流していたと思います。また、部活動も中体連を控え、各種大会や練習試合が週末ごとに行われていたことでしょう。この事態は誰も経験したことがなく、この先感染状況がどのようになるのか、教育活動をどうしていくのか、現段階では未知の部分が多い状態です。はっきりしているのは、授業が実施できなかった分の遅れを取り戻すため、授業の充実を図ることです。そのために、タブレットやDVDを使い、授業の予習的な課題を出しています。家庭でしっかり取り組むかどうかにより、授業の内容や必要時数が変わってきます。今やるべきこと、できることは、確実に取り組んでもらいたいと思います。

令和2年度生徒会活動



【教室掲示用生徒会ポスター】

令和2年度がスタートして間もなく臨時休校となったため、まだ活動自体は本格的にはスタートしていませんが、生徒会スローガンを各教室前面に学校教育目標と並べる形で掲示しています。これは、生徒会活動が学校教育活動の中核となる取組であることを意識したものです。今年度は今までの伝統は受け継ぎつつ、生徒朝会や常時活動の見直し、生徒による学習改善の更なる充実を図ってくれるということですので、「挑戦」し、「躍進」してくれることを大いに期待しています。

図書室の本、貸し出します

ゴールデンウィーク前にメールでもお知らせしましたが、昨年度同様、今年度も保護者や地域の皆様に図書室の本を貸し出します。昨年度末に保護者向けコーナーを設置しましたが、蔵書数が更に増えています。外出の自粛が求められており、休日の過ごし方にも何かと制限があると思いますので、ぜひこの機会に読書をされてはいかがでしょうか。本を借りる場合は、登校日にお子さんを通してでも構いませんし、直接学校に来られても結構です。職員室に声をかけていただければ、職員が案内いたします。



「水の作文」コンクールへ出品

本校では、昨年度より「水の作文」コンクールへ出品しています。本年度も臨時休校中の課題として、水に関する作文を全校生徒で書き、出品しました。昨年度は学校賞を受賞しましたので、本年度も引き続き受賞できることを期待しています。今回は、1年大空学級の2人の作品を紹介します。

山の水

ぼくの住んでいる天草町は、海と山に囲まれた、自然がいっぱいの美しい町です。その中でもぼくが住んでいる福連木地区は、「子守唄の里」としても有名で、山々に囲まれている地区です。

ぼくの家は、みかん山になっていて、みかんやぼんかんなどが植えられています。

ぼくが、小学生の頃、水道の調子が悪く、洗濯機やお風呂が使えないことがありました。何でも器用に作る祖父が、山から家までパイプを通して、水を引いてくれました。ぼくたち兄弟は、みかん山で遊んだ後は、引いた水で手や顔を洗います。弟や妹も「気持ちいいね。」と言います。

みかん山の水は、今はぼくたちの生活に欠かせません。水が使えなかったときの苦労や使えるようになった時の喜びを思い出しながら、大切に使いしていきたいと思っています。

緒方 冬哉

きれいな海を守るために

ぼくの夢は漁師になることです。小さいころから魚が好きだったからです。

ぼくが住んでいる天草町の大江沖では、春にはイシダイ、トビウオ、ミズイカ、アオリイカ、冬にはブリ、ヒラメ、スズキなどたくさんの魚が捕れ、毎年年末にはテレビで、大江漁港から寒ブリが出荷される様子が流れます。うちの父が魚を箱詰めしているところが映ったこともあります。ぼくは、小さいころから、天草で捕れる新鮮でおいしい魚を食べて育ちました。

先日テレビで、海洋プラスチックについて知りました。「プラスチックごみ」とは、陸地から流れ着いたペットボトルやビニール袋など、プラスチックでできた物がごみとなったものです。そのままの大きさで海に流れ出る物もあれば、5ミリ以下の「マイクロプラスチック」になり、流れ出る物まであるそうです。ぼくたちは毎年、白鶴浜のゴミ拾いを行っています。そこでは1時間位で、ポリ袋に10袋近くのごみが集まります。

ぼくは、天草町のきれいな海と魚が大好きです。これからもごみを捨てない心と拾う心と行動で、美しい自然を守っていききたいと思っています。

沢村 誠人